

令和7年度 学校自己評価シート

※ 評価基準：5(達成できた) 4(概ね達成できた) 2(あまり達成できなかった) 1(達成できなかった)

【目指す学校像】 「真理 正義 敬愛 自律 実践」の理念のもと、基本的生活習慣と主体的に学ぶ力、命や人権を大切にすることを備え、社会の変化に対応し、地域の発展に貢献できる人材を育成する。 【教育目標】
--

- 領域 (スクール・ポリシー)
- ① 基本的生活習慣と規範意識を確立するとともに、他者と協働する力を育む。
 - ② 自らの進路や自己実現に向けて、主体的に学ぶ態度を身につける。
 - ③ 社会の変化に対応して、自ら判断し、行動することができる力を育成する。
 - ④ 命や人権を尊重し、自他共に大切にすることを育む。
 - ⑤ 生徒の内面理解に努め、生徒の心に寄り添った、教育相談や生活指導に取り組む。
 - ⑥ 対話を重視した少数指導により、基礎・基本を定着させる学びを展開する。
 - ⑦ ICT機器の活用と授業のユニバーサルデザイン化に取り組み、「誰もが分かる」授業を行う。
 - ⑧ 職場や学校見学・就業体験などの体験活動を重視し、体系的なキャリア教育を推進する。
 - ⑨ 教科横断的・総合的な学びを通して、協働的な課題解決の方法を身につける。

A:5.0～4.0 B:3.9～3.0 C:2.9～2.0 D:2.0以下

分野	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	評価指標に対する成果	評価平均	評価	課題・改善の方策等
総務	1	③④	生徒にとってよりよい学びのある行事の精選・改良に取り組み、内容の充実をはかる。	各行事後に、生徒のアンケートを適宜実施し、肯定的な意見が全体の8割以上になることを目指す。	行事の精選・改良に継続的に取り組み、地域の方々との交渉を重ねたり、工夫を加えたりして、生徒の学びにつながる内容の充実を図ることができた。各行事後に実施したアンケートでは肯定的な意見が8割以上となったほか、感想文でも講師に感謝する内容も多かった。満足度が高く、生徒が意欲的に参加できる行事づくりを進められた。	4.4	A	防災講演会や地域貢献事業などの大きな行事に計画的に準備して取り組んだことで、生徒の意欲向上につながった。一方で、学校規模に合わせた行事を実施できるよう、計画についてよく検討することが必要であると感じた。また、学習内容と重複する部分は授業での実施を検討し、今後も学びの質を高める視点から行事の精選・改善に努めていく。
教務	2	②⑦	ICTの活用や授業のユニバーサルデザイン化を促進するとともに、生徒一人ひとりの学力と学習意欲の向上を目指し、教員全体の指導力の向上を図る。	公開授業後の生徒アンケートにおける「授業に主体的に取り組んだ」、「授業の内容はわかりやすい」の項目と、教職員アンケートにおける「公開授業の取り組みが授業づくりに役立った」の項目それぞれにおいて肯定的な意見が全体の80%以上となることを目指す。	<p>《公開授業後の生徒アンケート結果》</p> <p>※「そう思う」・「どちらかというそう思う」と答えた生徒の割合</p> <p>「授業に主体的に取り組んだ」…93% 「授業の内容はわかりやすい」…90%</p> <p>《公開授業後の教員アンケート結果》</p> <p>※「そう思う」・「どちらかというそう思う」と答えた教員の割合</p> <p>・「公開授業の取り組みが授業づくりに役立った」…85%</p> <p>来年度以降も校内の公開授業を継続しつつ、授業のユニバーサルデザイン化の推進と、生徒の学習意欲向上に努めていきたい。</p>	4.5	A	授業に対して前向きな姿勢を見せる生徒が増加した一方、学習に難色を示す生徒もいるため、各教科において授業中の様子や苦手にしている内容について情報交換できる場を設ける。また、具体的に困っている内容を確認するため、公開授業後に実施している生徒アンケートの方法や回数、時期などを工夫し、アンケート項目の変更を検討する。
生徒支援	3	①⑤	校則に基づいて、全職員で一貫した生徒指導を行う。また、毎日登校するための基本的生活習慣と、あいさつ・礼儀などの社会的マナーを身につけさせる。	学校生活のきまりの周知の徹底。生徒情報交換、立ち番指導を毎日行い、生徒の心身の状況把握を行う。夏季休業中の行事を充実させ、2学期以降の不登校人数0人を目指す。また、人権侵害に関する問題行動0件を目指す。	学校生活アンケートの「学校に来るのは楽しい」の項目に「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は約48%、「あてはまる」と答えた生徒の割合は約26%だった。また、「誰にでも元気があいつつしている」という項目には、「あてはまる」35%、「よくあてはまる」43%だった。2学期以降、欠席が目立つ生徒が増えた。飲酒・喫煙での特別指導が延べ4件あったほか、学校内外でのマナー違反や、自動車通学に関する規則違反での指導もあった。	3.6	B	問題行動が増えた要因として、①私服での登下校が可能となったことで、酒やたばこなどにアクセスしやすい環境ができた。②規則やルールを遵守する意識が乏しい。③自尊感情の低さなどが挙げられる。①については、近隣店舗との連携を強化して、非行の未然防止に努めたい。②に対しては、HRやオリエンテーションなどで、集団生活におけるルールの必要性を理解させるところから始めたい。③については、学校生活における様々な人との関わりを通して、自他を大切にすることを意識を醸成したい。また、指導の仕方については、年度当初に教職員で共有し、統一した指導を目指す。生徒にも周知徹底を図りたい。
	4	①⑤	心身の健康問題の改善に向けた指導の充実を図る。	健康診断後の受診率向上のため、面談等で結果を直接保護者に返し、併せて受診を促すことで、受診率30%台を目指す。また、健康講演会、メンタルヘルズ講習会等を通して心身の健康への関心を高める。	健康診断通知書と一緒に受診のお知らせを個別のクリアファイルに入れて、保護者面談時に直接手渡し、受診内容の確認と互助会の説明を行った。検診結果の説明と受診の必要性を伝えた時の保護者の反応は良いと感じた。しかし、実際の受診行動には至らず、受診率はここ数年と同様20%に満たなかった。生徒には個別の声かけ等で受診を促したが、親子間で受診に関する話ができていないため、今後はさらに多面からの取組を探っていききたい。	4.6	A	今年度の取り組みの中で、生徒だけでなく保護者についても健康診断後の受診についてはかなり優先順位が低いことがわかった。今後は、保護者へのアプローチは継続しつつ、生徒については、3年ないし4年の在学期間を通して、健康課題を一緒に考え繰り返す声かけをしていく健康相談等の取り組みを充実させていきたい。
キャリア支援	5	②③⑧	個々の生徒が自発的・計画的に行動し、希望する進路を見つけ実現できるよう、学年と連携して体系的なキャリア学習を充実させる。	進路説明会、企業・学校見学、インターシップ、各種講演会を実施し、年度のまとめとしてキャリアガイダンスを実施する。生徒アンケートの「本校の進路指導に満足しているか」という項目で、「(どちらかといえば)そう思う」という回答が80%以上になることを目指す。	左記の数値目標は、生徒が88%、保護者が83%という結果となり、おおむね達成できたと言えるが、「そう思う」よりも「どちらかといえばそう思う」の回答の方が多いため、さらに努力することが必要だと感じている。進路説明会の実施や進路通信の発行の回数を増やし、進路情報の発信に努めたい。	4.0	A	手続書類の整備や進路指導に係る校内規定を整理し、1年次から体系的・系統的な進路指導を実施する態勢を整える。就職・進学とも、遅くとも卒業年度の6月までには進路希望を確定させ、夏以降は余裕をもって受験準備に取り組めるようにする。
4年	6	①②	進路実現に向けて、生徒が自発的に行動できるようにする。また、卒業後、自立した社会生活を送るための生活習慣を身につける。	全員が希望の進路を実現する。また、卒業までに身につけた習慣をチェックリストにできるようにした項目が毎月増えるよう取り組む。	おおむね希望通りの進路に進むことができた。進路実現に向けての取り組みを通して、予定を立てて行動したり連絡をしたりするなど、基本的生活習慣を身につけた生徒が多かった。また、チェックリストを用いることで、生徒が普段の行動を振り返る習慣を作ることができた。しかし、そもそも客観的に自己を見つめることが不得手な生徒もおり、真に成長を実感する機会となったか否かについては疑問符がつく。	4.2	A	チェックリストについて、客観的に自己評価ができるようになるためには、教員が課題を設定したり、評価したりすることで、自他の評価のギャップを埋めていくことが必要だと感じた。より丁寧な指導と、出来るまで何度も繰り返す地道な努力が求められる。
3年	7	①②⑧	主体的に行事や学習に取り組む中で自己と他者を大切にすることを醸成する。進路実現に向けて主体的な行動が取れるようになる。	各学期に学校生活や普段の生活についての目標決めと振り返りを行う。生徒自身が立てた目標が達成できるようサポートを行うことにより、全ての生徒がいずれかの項目で肯定的な自己評価をつけることを目指す。	2学期のはじめに生徒が各自で設定した学習面と生活面の目標について、それぞれの程度達成できたかを生徒自身が振り返った。その結果、学習面・生活面共にある程度「目標を達成できた」と評価した生徒の割合が43%となった。目標を設定する際の実現可能性や、目標の共有などを通して、学期末にそれぞれの生徒が達成感を感じられるようなサポートを一層心掛けた指導を行う。	4.1	A	実現可能性があり、評価がわかりやすい目標の立て方を再度共有する。面談の際に目標の達成度について振り返る機会を設ける。進路に向けた自己分析のことも意識し、高校生活で取り組んだことや身につけた力について振り返らせる。
2年	8	①②④⑤	中堅学年として、規律と基本的生活習慣を徹底する。また、修学旅行の事前学習に取り組むことで、地域や文化に関する知識や関心を高める。	目標達成シートを活用し、生活面・学習面・精神面の自己モニタリング力を高めるとともに、自己評価の数値が上がるよう日々の指し導に努める。また、修学旅行の計画づくりを生徒とともにし、次年度の実施へつなげる。	目標達成シートにおける目標設定や自己分析を具体的に書ける生徒が増え、その内容も実態に即したものにできており、クラス内では自他の長所・短所を認め合う言動や雰囲気もできてきた。修学旅行の事前学習も順調に進んでいる。Ocoolo-34の結果として、セルフコントロールや規範意識に課題があるため、社会に出ることを念頭に指導に努めていきたい。	4.0	A	高校生活の後半を迎えるにあたり、規範意識や学習習慣について見直し改善させる。生徒同士が気兼ねなく声をかけ合える雰囲気を活かし、互いを向上させられる集団作りを目指す。
1年	9	①④⑤⑥	学校生活を送る上での基本的生活習慣を身につけるとともに、自己肯定感や他者への思いやりといった精神面での成長を促す。	目標達成シートを活用し、目標決めと振り返りを行う。生徒自身が立てた目標が達成できるようサポートを行うことにより、全ての生徒がいずれかの項目で肯定的な自己評価をつけることを目指す。	目標を持って学校生活ができていくかに対して肯定的な意見が93%だった。面談の中で目標の再確認をした結果である。他者への関わり方もありがたくカードやいどころ探しカードの影響から、居心地の良さを感じている生徒が増えたように感じる。時間意識が低い生徒や欠席が目立つ生徒がいるので、基本的な学校生活のサポートを続けていきたい。	4.4	A	学年としての所属感をさらに強めるためにHRでの積極的にコミュニケーションを取る機会を増やし、学校生活に目標を持って生活できるようにする。進級することで、先輩への模範となる行動を意識させることで、基本的な学校生活が徹底できるように促していききたい。